

岐阜分室便り 『建設技術フェア2006in中部』に出展して

岐阜分室長 大竹 良昌



11月8日(水) 9日(木)ナゴヤドームにおいて「建設技術フェア2006in中部」が開催され、昨年に引き続き出展をしましたので、その概要を報告します。本フェアは今年で10回目を迎えるもので、“豊で安全なくらしと環境の調和をめざして”をサブタイトル、‘知っている？建設技術！’をキャッチフレーズに

産・学・官の技術情報交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進に資する。

建設分野を専攻している学生に技術開発の現状と今後の方向性を紹介する。

次世代をになう小中学生が、ものづくりや環境学習等を通じて建設技術の魅力を体感できる場を提供する。

建設技術の魅力と社会資本整備の必要性を広く女性・親子等を含め、一般の方々へ紹介する。

を目的に開催されました。

会場となったナゴヤドームは、地下鉄の駅に近いという交通の便の良さ、担当事務所の近く、さらには展示物設置機械や運搬車両がドーム内に入れるという利点から昨年に引き続き選定されました。

出展者は、出展募集テーマ(5)・活用分野(10)・工種分類(36)を予め決めて応募し、出展採択を得ることになります。今年は257の技術出展がありました。また、同時に‘情報発信・体験エリア’(町づくり情報、建設機械体験、総合・環境学習など5ゾーン)‘技術相談エリア’、‘道の駅」紹介エリア(2コーナー)も設けられました。

出展者も模型、材料見本、映像のほか女性による技術紹介など出展方法を工夫し、多くの来場者の確保に努めた。

また、各エリアでも土石流や地震、降雨、流木アートなど実体験ができるようになっていました。



岐阜分室は、「良好な環境を取り戻し美しく持続可能な国土の形成に関する建設技術」の募集テーマで「河川分野」に【自然再生】という出展技術名でパネル展示と出版書籍の紹介をしました。

間口も展示室も広がったが、パネルだけの展示であったため来場者は少なく、出版物や無料配布書籍を見られる人が多かった。



期間中の総入場者は約14,100人で、昨年より1,600名増え、技術系高校、大学その他ナゴヤドーム近隣の小学校から多くの児童が見学、体験と会場内がにぎわっていた。